

## おわりに

今回の季報では、近年の気候変動や海水温の上昇と関連していると考えられる主要浮魚類の漁況について述べてきました。近年は、これまでとは違った季節はずれの魚介類の漁獲やこれまで出現量が少なかった魚介類が目立つようになってきています。漁業者の皆様は、このような変化を漁の現場で肌で感じておられることと思います。

1960年代中頃から日本海沿岸の各府県が沿岸水温の一斉観測を行うようになりましたが、その中で、1998年以降の高水温の持続傾向はこれまで観測したことがない期間や規模で続いています。今回述べました3種の浮魚類の漁獲動向は、気候変動や海水温の変化により影響を受けて変動していることがうかがえます。このことは、これら浮魚類の行動の変化も示唆しています。そこで、漁業者の皆様も一度、釣りや定置網などの操業現場での漁業技術(操業場所、操業形態など)の見直しも考えられてはどうでしょうか。

近年の高水温の持続が、他の様々な日本海の海洋生物にどれほどの影響を与えているのかについては、まだほとんどわかっていません。

当所では、海洋で起こっている多様な現象の原因を様々な角度から解析し、今後の漁業に与える影響等について検討するため、各種の調査を継続しています。これらの調査への御協力をお願いするとともに、漁の中で発見されたり、感じられたことを当所までお知らせ頂ければ幸いです。